

A-1					
主題	胃瘻から経口摂取への取り組みで、もたらされた効果				
副題	ベッド上での生活から歩けるようになるまで				
キーワード 1	経口移行	キーワード 2	QOL 向上	研究(実践)期間	18ヶ月

法人名・事業所名	社福) あそか会 特別養護老人ホーム塩浜ホーム
発表者(職種)	藤崎竜太郎(介護職員)、大井加菜子(介護職員)
共同研究(実践)者	小松磨子(介護職員)、若松しょう子(管理栄養士)

電 話	03-5683-5571	F A X	03-5683-5575
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	塩浜ホームは平成7年に開設した江東区にある特別養護老人ホームです。特養60床、ショートステイ10床の小規模施設です。「利用者本位」の精神を大切に、塩浜とかけて「初心を忘れず、思いやる気持ちと、励む志を持ち、まっすぐ介護に向き合います」という行動指針を設け、地域に根付いた施設を目指しております。
-------	---

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

入所前の面談時、A氏のもとへ当施設のケアマネージャーが伺った際、A氏は経管栄養であり「口から食べられるようになりたい」と強い希望があった。当施設では、経口移行への取り組みを行った際に、3食の経口摂取が完了した利用者があり、その旨をA氏に説明すると大変興味を持って頂け、入所後に経口摂取への取り組みを実践する形となった。

A氏が経管栄養になった経緯：誤嚥性肺炎により経口摂取が困難になり2018年3月胃瘻を造設。老健に入退所を繰り返されていた。その為、ベッドから出る事はあまりなく、寝たきりの状態であった。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

目的：A氏の「口から食べたい」との意欲を尊重し具体的に食べたいものは何か、伺うと「チーズケーキと、美味しい紅茶」と回答があった。A氏の希望を達成すると共に、3食経口移行完了。QOL向上を目指す。

仮説：現在ベッド上で横になっている生活が主な為、経口摂取を行う事で、離床時間を少しずつ増やし、その事で筋力UPモチベーションUPに繋がると考える。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 多職種との連携が必要不可欠な為、歯科医師、看護師、ケアマネージャー、栄養士、機能訓練士、介護士の情報共有できる場を設ける。
- ② 歯科医師の指導の元、嚥下状態の確認を行う。30秒で何回嚥下が出来るかを調査。(RSST)嚥下状態がクリアしたことで1日1回ゼリー1個を摂取。
- ③ ミキサー粥、水分はハチミツ程度のとろみをつけ提供。摂取良好だった為、昼食にミキサー粥、主菜1品(ソフト食)。同時に昼の経管栄養中止。

④1 か月後には昼食に副菜 1 品追加（ソフト食）。

⑤上記の状態を5か月観察し歯科医師判断の元、朝食を提供。

⑥朝食開始から1か月後、摂取良好な為、夕食を提供。これで1日3食提供となるため経口移行は完了となる。

・同時進行で、離床し食事摂取されることを目的に、機能訓練士を中心にリハビリを開始。

#### 《4. 取り組みの結果》

2020年1月からゼリーをお試して開始し、良好だった為、昼食を少しずつ増やす事が出来た。

ソフト食ではあるが、他の利用者と同じような量に到達するまで、わずか3か月で達成。

この頃には、車椅子で自走し食堂まで移動されるようになる。

朝食開始は2020年9月。同時期に歩行器で見守りにて移動を開始する。

3食経口移行完了までの期間は合計で約11か月。（2020年10月）

その1か月後ハーフ食から、普通量に食事量が増加（2020年11月）

2020年12月に食事形態を変更。主食は粥、副菜は極細。

運動量の増加により体重減少が見られていた。

・現在2021年5月（18か月）の状況

移乗：朝のみ車椅子使用、他は歩行器で単独移動。

排泄：オムツからトイレ介助に移行。 食事：主食は軟飯、副菜は刻み食。水分はトロミ弱程度。

「チーズケーキを食べたい」と言う目標も達成できた。

コロナ渦で、歯科医に診て頂く事が出来ないこともあったが、順調に進んだと思われる。

#### 《5. 考察、まとめ》

「食べたい」という思いは、他の動作にも関わってくる。食べる事を行う事に対し、しなければいけない動作がある。ベッドから起きる。食堂へ向かう。簡単なことのように思えるが主のメンタルや周囲の接し方などが重要になってくる事であった。

入所当初は、居室から出る事も無かった主であったが、現在は歩行器を使用し歩けるまでになっている。ここまで出来るようになったのは、主に関わる全ての職種のコミュニケーションの在り方それと主の“やる気”であると感じた。

食べる事は、健康な人にとっては簡単なことかもしれないが A 氏のような経管栄養や、介護を必要とする人にとっては、とても大変な事である。

ひとつひとつの事が積み重なり目標に達成するのであり、突然目標に到達できるわけではない。小さなことをコツコツと行っていく周囲の接し方と対象者の意思が目標達成のカギとなると感じた。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

・口から食べる幸せをサポートする包括的スキル（医学書院）

#### 《8. 提案と発信》

QOL の向上にあたって、利用者に関わる職種の関係性が最も重要です。順調に進めなくても、諦めず支援を行うことが大事です。経口摂取をするにあたって、課題はたくさんありますが、チームで1つずつ解決していく事で目的を達成できると考えられます。